

堀川1000人調査隊2010による3年間の調査のまとめ(概要版)

第6回調査隊会議 平成22年2月27日

■調査隊2010結成 平成19年4月22日
木曾川からの導水による浄化効果を市民の視点と感覚で調査を開始

～市民の視点と感覚～
・汚れ・透明感・色・あわ
・臭い・ごみ・生き物など

■隊員数 1,762隊 14,123人
平成22年2月15日現在

■調査報告数 1,758件
第1ステージ(平成19年4月22日)
～第6ステージ(平成21年12月16日)

■調査期間
第1,3,5ステージ 春～初夏(4月～6月)
第2,4,6ステージ 秋～初冬(9月～12月)

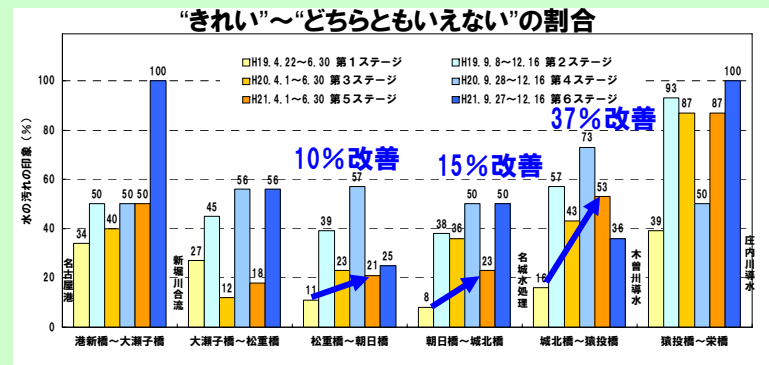


■猿投橋～松重橋間で浄化の効果と 考えられる変化を確認

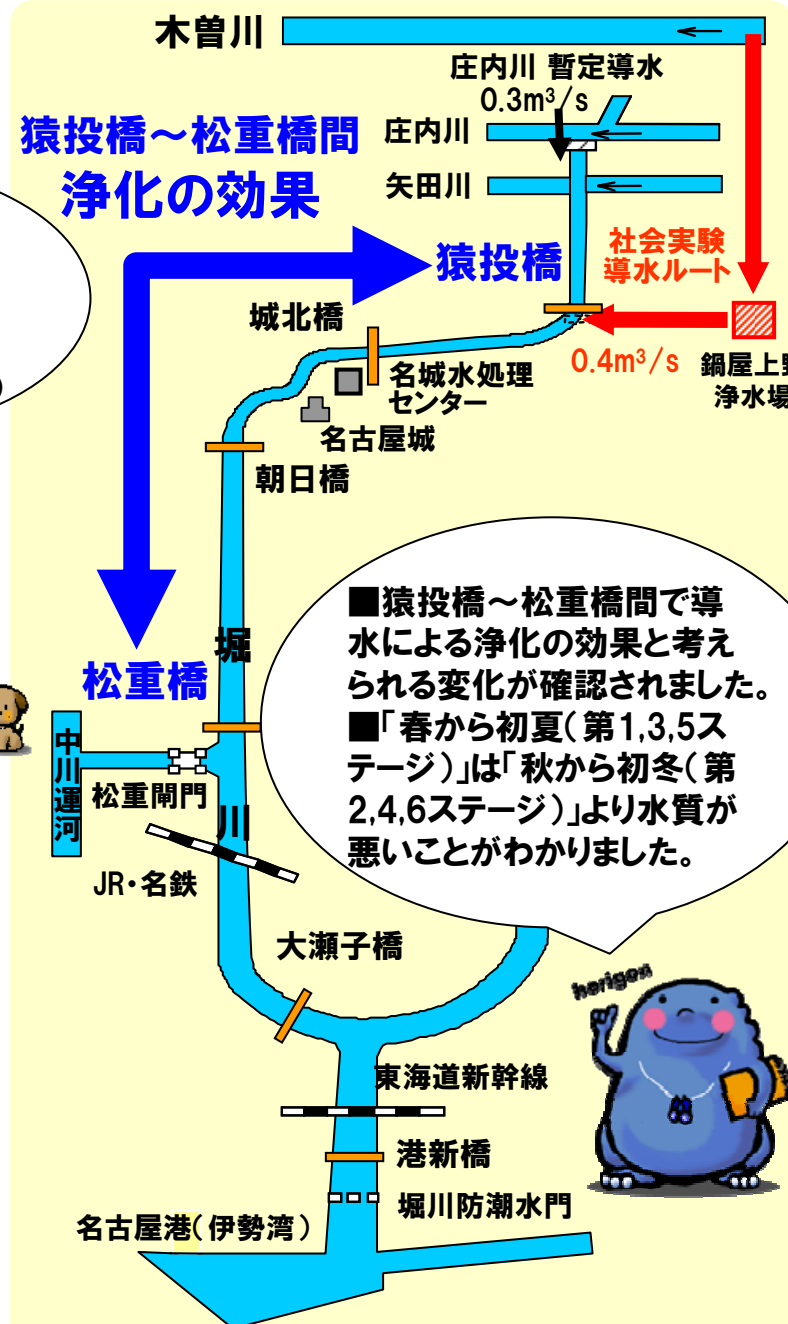
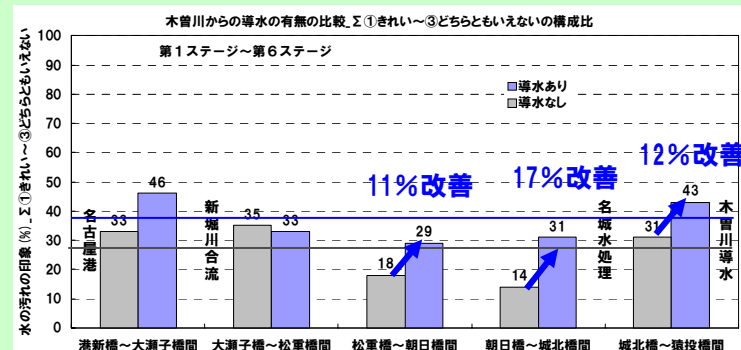
1.水の汚れの印象が改善

…“きれい～どちらともいえない”の割合が増加

①第1ステージ(導水開始直後)と第5ステージを比較
→平均21%改善(10%～37%改善) **p21参照**



②導水あり・なしの比較
→平均13%改善(11%～17%改善) **p22参照**



■猿投橋～松重橋間で導水による浄化の効果と考えられる変化が確認されました。
■「春から初夏(第1,3,5ステージ)」は「秋から初冬(第2,4,6ステージ)」より水質が悪かったです。



改善区間の整理 ○: 改善が見られた区間

項目	評価方法	港新橋～大瀬子橋	大瀬子橋～松重橋	松重橋～朝日橋	朝日橋～城北橋	城北橋～猿投橋
水の汚れの印象	ステージ毎の変化(第1ステージと第5ステージを比較) 導水あり・なしの比較			○	○	○
透視度	ステージ毎の変化(第1ステージと第5ステージを比較) 導水あり・なしの比較		○	○	○	○
COD	ステージ毎の変化(第1ステージと第5ステージを比較) 導水あり・なしの比較			○	○	○
あわの発生状況	ステージ毎の変化(第1ステージと第5ステージを比較)			○	○	○
臭いの発生状況	ステージ毎の変化(第1ステージと第5ステージを比較)				○	○

2.透視度が改善…第5ステージの透視度60～68cm

①第1ステージ(導水開始直後)と第5ステージを比較
→平均9cm改善(7～10cm改善) **p34参照**

②導水あり・なしの比較
→平均12cm改善(9～14cm改善) **p35参照**

3.CODが低下…第5ステージのCOD10～13mg/L

①第1ステージ(導水開始直後)と第5ステージを比較
→平均3mg/L低下(2～4mg/L低下) **p43参照**

②導水あり・なしの比較
→平均2mg/L低下(2～3mg/L低下) **p44参照**

4.あわが減少…“泡は見られない”の割合が増加

第1ステージ(導水開始直後)と第5ステージを比較
→平均20%改善(15～25%改善) **p54参照**

5.においが改善…“臭わない～やや臭う”の割合が増加

第1ステージ(導水開始直後)と第5ステージを比較
→平均26%改善(17～34%改善) **p59参照**

6.ごみが減少 **p70, 73参照**

人工ごみ(浮遊、路上)は概ね減少の傾向

7.生き物の変化 **p76～91参照**

水草の生育区間が筋違橋(導水1年目はなかった)まで確認されたこと、小塩橋付近でボラの幼魚の遡上がたくさん確認されたことなど、生き物たちを取り巻く生態・生育環境や生き物の行動にも変化

■堀川の自浄能力の回復などにより相乗的に水環境が改善

この3年の堀川の水環境の改善は、木曾川からの導水による直接的な効果だけでなく、浄化施策の実施に加え、堀川の自浄能力の回復、流域全体の浄化意識の向上、堀川をとりまく社会的な環境の変化(レジ袋の有料化等も含む)などの相乗的な効果によるものと考えられる。

木曾川からの導水を含む水質浄化対策と市民の浄化活動の継続・実施により、更なる水環境の改善に期待が持たれる。